

国語総合の傾向

はじめに

医療の専門家を目指して本学への入学を希望されている皆さんは、いずれ医療専門職となって社会の様々な問題を抱えながら生活している人々とうまくコミュニケーションをとることが必要となります。そのためには、現代社会における人々のあり方を論じた文章を数多く読んで内容を理解し、それに対する自分の考えを持つことが大切です。筆記試験では、内容の読解までにとどめていますが、日本語を正確に読み、正確に書くことは大学での学習のスタートラインです。

傾向

- 1 マークシート方式による選択式です。
- 2 言語聴覚専攻科及びリハビリテーション学科（一般選抜・チャレンジ（特待生）選抜）は、現代文2題で、その内訳は評論2題または評論・随筆各1題です。
1問目の評論文の問題は科学・歴史・心理・哲学・文化など幅広いジャンルから出題される、やや硬質な文章で、内容把握が中心です。2問目の評論文または随筆文の問題は1問目よりやや柔らかめの文章で、内容把握のほか、さまざまな国語の知識が問われます。いずれの問題も高校の教科書レベルの文章が出題されます。
- 3 漢字の読み書きは必須で、語意、四字熟語・ことわざなどの知識問題も頻出しています。また読解問題は空欄補充、欠文補充、指示内容、内容説明、理由説明などの部分読解問題と全体読解問題（筆者の主張、内容一致など）に分かれます。
- 4 たとえ易しい印象を与える評論文であっても、受験生には馴染みのない評論キーワードが文中では使用されていますから、市販の入試問題集を解いたり、新聞や新書などを読んだりして、論理的、抽象的な文章に慣れておく必要があります。
- 5 評論文を読むための参考文献や、試験に際しての問題の取り組み方など、試験対策についてはオープンキャンパスの対策講座で入試のポイントを解説します。
- 6 大学入学共通テストと比べると、本文の分量も少なく、選択肢の長さも短いので、はるかに取り組みやすい問題です。
- 7 リハビリテーション学科（総合型選抜：公募推薦型）は現代文2題及び国語の知識問題小問集合です。

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

そもそも⁽¹⁾なぜ人は、SNSなどネットでつながろうとするのか。

アメリカの政治学者、ロバート・パットナムの『孤独なボウリング』という本が日本で出版されたのは二〇〇六年でした。

ぼくはアメリカの市民社会というと、週末は家族で野球観戦にでかけ、いつもどこかでホームパーティーが開かれていて、日本とは違う豊かな人間関係とコミュニケーションが保たれていると、勝手にイメージしていました。考えてみれば、そんなはずはないのですが、同書であらためて現実の一端をかいま見た思いがしました。

かつてアメリカではボウリング場というのは地域社会の「つながり」の場として存在していました。そこは地域のコミュニティの A 的場だった。しかしいまでは黙々とひとりボウリングに興じる人が増えた。まさに「孤独」の場になってしまったということです。このように、アメリカでも近隣とのつながりが薄れ、地域社会の結びつきは (2) 崩壊しつつある。

日本でも戦後からは一貫して、地域社会のみならず、家族親族、職場、学校のクラスといった場での人間関係が薄れてきました。戦後史を B

性や人と人とのつながりという視点で見直すと、⁽³⁾それは日本人が「個」の自立に到達する過程であったということが分かるかもしれません。しかしその「個」は「つながり」の C 的な場を喪失しつつあります。「つながり」をあらかじめ約束するような場としての学校、町内、職場はなくなりつつあります。「つながり」は、場に求めるのではなくて、自分の力で構築するものになっていくとしているのです。（1）

そこへ突然あらわれたのがネット社会でした。近年、急に「つながり」(4)「絆」ということを耳にするようになったのも、ネットが整備されたこと、ネットことばの時代になったことと無縁ではありません。

しかしかつての「つながり」が、すべての人を幸福にしたわけではないということも忘れてはいけません。その「つながり」が不幸を生むゲン a キョウ b だったこともあります。声高にかつての「つながり」の復活を唱える人々は、そのことを忘れているのかもしれない。

近代の理想は、人が「個」として自立することだといっているかもしれませんが。しかし現実には、国家やその末端の単位としての家族、地域社会への帰属意識を b ナカば強制してきました。

だから近代が抱えていた大きなテーマは、内部としての「個」と外部としての共同体の、それら両極に引き裂かれた個人の悲鳴だったともいえます。戦後世界の流れは「つながり」よりも、「個」の自立に比重を移し、二〇世紀末の世界では、「個」の時代が完成したかに見えます。⁽⁴⁾ 世界は孤独 なボウリング場になりました。

そこでどうすればいいのか、ぼくたちは途方に暮れているのです。「個」の自立といえは聞こえがいいのですが、実際は「個」として、^cチュウに放りだされただけなのです。つながりが失われたところで「個」が自立するのは、まさに自己の力をたよるしかない。(2)

その力となるのはことばです。そもそも人々は、孤独に耐える力、個を自立させる力を書きことばに求めたのではなかったのか。それが近代文化が追求してきた人間像だったはずです。社会は人間に「個」としての D 的な自立をうながしました。その際、書きことばは人間を孤立や孤独や不安からすくい上げる役割もはたしてきたのです。

いま社会は対話やコミュニケーションを、生きる上での最良の力として喧伝^{けんでん}しています。ネットことばにおいても対話力、コミュニケーション力があるものが成功する。あるいは幸福で豊かな人生を歩むというわけです。

しかしこれには偽りが隠れています。技術としての対話やコミュニケーションをいくら磨いても、そこに幸福などありません。ソクラテスは対話によつてことばを紡ぎだしました。しかし彼に備わっていたのは、対話力ではなく、対話を土俵とする「思考力」でした。対話はその手だてとして有効だったのです。しかもそれを後世に伝えたのは、プラトンによる書きことばでした。ソクラテスと対話できない現代人は、プラトンが書いた本のなかで、彼と対話するしかない。(3)

だれもが知っている日記があります。二年間もの長い間、狭い隠れ家で八人のメンバーの一人として息を潜めるように暮らした少女が書いた日記は、彼女の死後に発見されて、世界中でベストセラーになりました。アンネ・フランクがつづった日記は、^dカクウの人物に送る手紙という^eテイサイをとっています。それが小説、文学作品として読むことができるものです。

彼女は作家として読者にむけて書いたわけではありません。息を殺し暮らさなければならぬという想像をこえた閉塞感のなかで、「書くこと」によつて自分を支え、生を営む意味を考えつづけたのだと思います。ここに書きことばの神髄があります。書くことは思考であり、その思考を深めること、継続することで、生きのびる力を得ることができる。

同時にそれを読む現代の読者もまた、生きのびる力を得ることができます。本と接するなかで、⁽⁵⁾こうした感覚を体験したことがない人には、いくらかことばを連ねてもこれは理解されないかもしれません。(4)

いま社会にあふれている「絆」「つながる」ということばに、^{ぎまん}ぼくは欺瞞の臭いを感じてしまいます。それは自己の思考力や自立をネット的な、あるいは情報的な場に回収する動きのようにも見えます。現代はむしろ他者との対話より、書きことばによる自己との対話こそがたいせつなのです。書きことばとは突き詰めると、自己との対話であり、思考です。

他者との上っ面の会話や技術としてのコミュニケーション力で、自分を支えることはできません。

孤立した思考世界で自己と対話することは、ネットではなく本でなければできないことなのです。そこには「つながらない」価値があります。失われつつある書きことばをばくが捨てられない理由もそこです。

人類の歴史をふり返ると、必ずしもすべていい選択をしてきたわけではないということが分かります。ときに誤った選択で、必要なものを切り捨ててということもありました。おそらくこのままいくと、旧来の書きことばは消滅します。あるいはまったく質や形を変えたものとして、書きことばの文化はネット上に誕生するでしょう。(5)

「こんなにいいもの、必要なものがなくなるはずはない」というのは、よほどの楽道家か、じつは書きことばなどどうでもいい人なのです。書きことばの力を知っている人は、生きているかぎりそれを捨てることはない。どんなに古くさく疎まれるようなものになっても、⁽⁶⁾ として、書きことばを、本を選択するはずです。

(藤原智美『つながらない勇気——ネット断食3日間のススメ』文藝春秋による)

問(一) 傍線部a～eのカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a || 1 b || 2 c || 3 d || 4 e || 5

- | | |
|---|-----------------|
| a | ゲンキヨウ |
| 1 | 母校の優勝にキョウキする。 |
| 2 | 豊かな生活をキョウジュする。 |
| 3 | キョウアクな事件に心を痛める。 |
| 4 | キョウシユクのいたりです。 |
| 5 | 市場がカツキョウを呈する。 |

b
ナカ|ば

- 1 ナマハン|カナ知識。
- 2 ハン|ロを開拓する。
- 3 モハン|を示す。
- 4 ハン|チヨウに任命される。
- 5 商売がハン|ジョウする。

c
チュウ|に

- 1 路肩にチュウ|シャする。
- 2 事件はハク|チュウに起きた。
- 3 チュウ|カイの労をとる。
- 4 クチュウ|を察する。
- 5 今やウチュウ|旅行も夢でない。

d
カク|ウ

- 1 勉強したセイ|カが出る。
- 2 カ|チュウの人となる。
- 3 カ|キョウ工事が始まる。
- 4 カ|ブンにして知らない。
- 5 絵画コン|クールでカ|サクになる。

e
テイ|サイ

- 1 ショ|サイで読書する。
- 2 借金をヘン|サイする。
- 3 イ|サイをはなつ。
- 4 知事のサイ|ケツを仰ぐ。
- 5 サイ|ガイに備える。

- 問(二) 空欄 A D を補うのにふさわしい語を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選んではいけない。)
- | | | | | |
|------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | A <input type="text"/> 6 | B <input type="text"/> 7 | C <input type="text"/> 8 | D <input type="text"/> 9 |
| 1 共同 | 2 具体 | 3 歴史 | 4 精神 | 5 象徴 |

問(三) 傍線部(1)「なぜ人は、SNSなどネットでつながろうとするのか」とありますが、筆者はその理由をどのように考えていますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 10

- 1 人は伝統的な共同体から脱出して「個」として自立しようとするから。
- 2 人は書きことばの力によって孤立や孤独や不安から免れようとするから。
- 3 人はネットを通じて地域社会とのつながりを再構築しようとするから。
- 4 人は喪失した「つながり」を自分の力で再構築しようとするから。
- 5 人は地域社会や職場などより、ネット社会の方を好ましく思っているから。

問(四) 傍線部(2)「崩壊」と熟語の構成が同じものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 11

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| 1 観戦 | 2 無縁 | 3 閉塞 | 4 孤立 | 5 有効 |
|------|------|------|------|------|

問(五) 傍線部(3)「それ」の指示する語句としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 12

- 1 地域社会
- 2 家族親族、職場、学校のクラスといった場
- 3 人間関係
- 4 戦後史
- 5 人と人とのつながりという視点

問(六) 傍線部(4)「世界は孤独なボウリング場になりました」とはどういうことですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

13

- 1 かつての地域社会の「つながり」によって不幸になった人々が、孤立や孤独や不安に苦しむようになったということ
- 2 「個」の自立が重視される一方で、地域のコミュニティの結びつきが弱くなったために、人々が孤立し孤独になったということ
- 3 かつての地域社会の「つながり」から解放されて自立した人々が、孤立や孤独をむしろ楽しむようになったということ
- 4 豊かな人間関係とコミュニケーションを楽しんでいた人々が、「個」の自立と引き換えに孤立し孤独になったということ
- 5 孤立や孤独や不安に苦しむ人々が、かつての地域社会の「つながり」を切に求めるようになったということ

問(七) 傍線部(5)「こうした感覚」とはどのような感覚ですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- 1 書きことばが思考を深め、生きのびる力を与えてくれるという感覚
- 2 想像をこえた閉塞感のなかで自分を支え、生を営んでいるという感覚
- 3 対話力、コミュニケーション力が幸福をもたらしてくれるという感覚
- 4 コミュニケーション力によって生きのびる力を得られるという感覚
- 5 書きことばを通じて他者とつながり、対話することができるという感覚

問(八) 傍線部(6)「()として」の空欄() ()を補うのにふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

15

- 1 「個」として自立した証あかし
- 2 他者とつながる手だて
- 3 孤独を慰めてくれる仲間
- 4 人類の歴史を振り返る過程
- 5 自己が生きのびるためのすべ

問九 本文から次の文が脱落しています。本文中の(1)～(5)のどこに戻すのがふさわしいですか。後群のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

それが思考することです。

- 1 (1) 2 (2) 3 (3) 4 (4) 5 (5)

問十 本文の内容と合致するものを、次のうちから二つ選び、その番号をマークしなさい。(解答の順序は問いません。)

17

18

- 1 近代は「個」の自立が理想だったが、それは必ずしも国家への帰属意識と矛盾していたわけではない。
- 2 アメリカでは、人はホームパーティやボウリングなどで地域社会といつもつながっている。
- 3 日本で地域社会の結びつきが崩壊したのは、ネット社会が到来したからである。
- 4 現代のネット社会では、対話力やコミュニケーション力をつけることが肝要である。
- 5 アンネ・フランクは日記を書くことで自分を支え、生きのびる力を得ることができた。
- 6 「個」として自立し思考力を高めるためには、書きことばに依拠しなければならない。

2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

コミュニケーションにおいて、メッセージの送り手と受け手という両主人公の用いる言語が異なるときに初めて三番手の参加者である通訳者、あるいは翻訳者が登場する余地が生まれる。登場するといっても、通訳者や翻訳者（面倒なので、両方^a併せて訳者ということにする）は、決して両主人公と同格ではない。決して主人公にはなれない立場にいる。送り手という名のご主人が発するメッセージを出来る限り忠実に、つまり正確かつ過不足なく受け手という名のご主人に届けることを使命とする、いわば二人のご主人に仕える下僕、両旦那^{だんな}の胸三寸でその運命が^b翻弄される実にはかない存在なのである。

訳者は、メッセージの中継者として、送り手に対しては受け手を代行し、受け手に対しては送り手の役割を代行する。そして、通常のコミュニケーションにおいて、メッセージの送り手というものは受け手を十二分に想定して、言葉や表現を選び、また逆に受け手のほうも、送り手によってその言葉の意味するところを推し量るものだ。訳者は同時に受け手であり送り手でもあるため、その営みの内容とあり方は大いに本来の送り手と本来の受け手に左右されてしまうものなのだ。

「子は親の鏡」であって、「⁽¹⁾鷹が鷹を生む^{たか}」ことも「鷹が鷹を生む」ことも、こと訳に限って言えば許されない。許されないといったって、⁽²⁾ある新聞社が主催した、長寿学に関するシンポジウムを聴講した際に目の当たりにしたような事態は、しばしば起こり得る。

旧ソ連邦のコーカサスあたりには長寿村といって、百歳以上の長寿者がウヨウヨいる村落が点在する地域がある。長寿というのは、Aの人々が常に追い求めてきた夢であり、昔からこの地域を対象にフィールド・ワークが盛んで、それをベースに長寿学という名の学問が発達してきた。長寿者たちの生活は一体どうなっているのか、そこに何か人間が生命を延ばせる秘訣^{ひけつ}があるのではないかというので、シンポジウム会場の日本の老人学の専門家たちからも、一般聴講者の方々からも、壇上にいるコーカサスからやってきた長寿学者に対して、いろいろ質問が出た。

質問一 長寿者の食生活はどうなっているのでしょうか。

回答（ロシア語で）蛋白質^{たんぱく質}、灰分、繊維、ビタミン、ミネラル、炭水化物は豊富に摂取しますが、動物性脂肪はほとんどとりません。
通訳 長寿者のみなさんはたっぷり栄養をとっております。

質問二 では長寿者のみなさんは普段どんな生活、どんな仕事をしておられるのでしょうか。

回答（ロシア語で）長寿者は主に、ブドウやナシ、アンズなどの果樹栽培、羊や山羊^{やぎ}などの牧畜に従事しております。

通訳 はい、長寿者のみなさんは、毎日元気に働いております。

この時の通訳者は、いかにも自信たっぷりに堂々と、うつとりするほどよく通る美しい声で訳すものだから、当日会場に居合わせたロシア語を解さぬ大多数の聴衆は、まさか通訳のところで大切な情報が濾過^{ろか}されているとは、露^ろほども疑わなかったのではないだろうか。そして、コーカサスの長寿学^{ちやうしがく}つてのは、ずいぶんアバウトでのどかなものだなんて感想を持ったのではないかしら。

とにかく通訳の段階で切り捨てられてしまうと、結局言わなかったと同じことになるという、^d至極当然でありながら、見過ごされることの多い真実が、ここに厳然とある。さらには、⁽³⁾門外漢^{もんがいはん}にとって分からない情報というのがいかにゼロに等しいかということが、この例でもよく分かる。

まるで他人事^{ひとじ}のように、長寿学シンポジウムでの通訳氏の仕事ぶりを、^xあげつらってきたが、実は通訳という⁽⁴⁾生業^{せいごう}で、^y口を糊^{のり}する者にとって、これは、^z身につまされる問題なのである。原文が立派で訳文がお粗末、原発言で実に賢明なことを言っているのに、訳を聞く限りスピーカーが馬鹿に見えるというふうには、下僕が能なしのために両ご主人様にご迷惑をかけてしまうという危険は、常につきまとうのだ。かくいう私も、通訳業を開業してこのかた数限りなくそんな罪作りを重ねてきたものだ。

(イ)、その逆の辛^{つら}さもまた理解していただきたい。「鳶^{とび}が鷹^{たか}を生む」ことが許され、⁽¹⁾ない辛さである。原文がお粗末な内容ならば、訳文もまたそのお粗末さを余すところなく伝えねばなら、⁽²⁾ないし、原発言者がどんな馬鹿なこと、理不尽なこと、Bなこと、恥知らずなこと、無知蒙昧^{もくまい}出しのこと、⁽³⁾はしたないことを言おうと、訳者はそれを修正する権利を持た、⁽⁴⁾ない辛さである。おおよそ通訳を介して発言する人は、比較的「偉い」人が多い。そのため、大多数の聞き手は、

「まさか、こんな馬鹿なことを、あの偉い人が言うはずが、⁽⁵⁾ない。きっと、馬鹿な通訳が誤訳したに違いない」と思いこんでしまうものなのである。

さて、訳者が発信者から忠実に受け継ぐのは、メッセージの内容ばかりではない。発信者が本来、受信者に対して意識的かつ無意識的に抱く配慮が、言語が転換したことによって筋違いにならぬよう努めねばならない。(ロ)、訳は、受け手に理解されて、初めてその目的を達成するのであるからして、受け手が誰かということは、訳者にとって、訳の内容をも左右する重大な要素なのである。

例えば昨年(一九九三年)十月、エリツィン大統領側が武力制圧することによって七十五年に及ぶ歴史を閉じたロシアの旧議会。この最終決着に至るまでの間、議会支持派の集会などで盛んに「全権力をソビエトへ」というスローガンが叫ばれている。これは、レーニンが一九一七年の社会主義革命の時に、^e掲げたスローガンである。「ソビエト」とは、評議會を意味し、代議制ではあるが、立法権、行政権の二権、時には司法権をも併せ持つよ

うな機関なので、厳密にいつて、一般に立法府のみを意味する「議会」ではない。(ハ)、専門家の会議では、これをそのまま「ソビエト」と訳すことにしているし、それで十分に通じる。しかし、放送の通訳をする場合には、これを聞いている人は不特定多数、Cである。したがって、普通の人理解できる訳語を用いる。「議会」というふうには、受け手に理解されなくては、意思疎通の目的は達成されない。コミュニケーションは、不成立だったということになってしまうからだ。

さらにそのうえ、訳者たるもの、メッセージの受け手が、送り手の言葉を理解するに当たって、送り手が何者かによってその言葉の意味するところを推し量ろうとする、その性向をも代行しなくてはならない立場にある。

(二)、英語で territory と綴り、ロシア語で территория と書きたった一つの単語として、送り手いかに訳語は D に変化する。エリツイン大統領が細川首相との会談で、この単語を口にすれば、百発百中その訳語は「領土」であろうし、マフィアの親分がすごんで言ったのなら、おそらく「縄張り」のことである。どちらも同じようなものだとしても。

だからこそ、誰の通訳をつとめるのか決まった時点で、通訳者は懸命に、その話し手がいかなる用語や表現をまとめ、頭にたたき込む。

(中略)

以上のように、通訳、翻訳という営みは、メッセージの送り手と受け手という二人の旦那にいつもいつも気を遣いながら、その二人の旦那を生かすために決してでしゃばらず、自分というものを押し殺していかなければならない。(ホ)、その運命は二人の旦那次第という、思えば、なんとも過酷で分の悪い仕事ではないか。まあ、もう少し学問的な言い方をするならば、⁽⁵⁾ 訳はメッセージの送り手と受け手に依存するものである。

(米原万里『米原真理ベストエッセイⅡ』KADOKAWAによる)

問(一) 傍線部 a ~ e の漢字の読みが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 1

- | | | |
|----------------|-----------------|--------------|
| 1 a 「併」 〓 あわ | 2 b 「翻弄」 〓 ほんぼう | 3 c 「露」 〓 つゆ |
| 4 d 「至極」 〓 しごく | 5 e 「掲」 〓 しか | |

問(二) 空欄 (イ) () (ホ) を補うのにふさわしい言葉を、次のうちからそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| イ 〓 2 | ロ 〓 3 | ハ 〓 4 | ニ 〓 5 | ホ 〓 6 |
| 1 例えば | 2 しかし | 3 だから | 4 あるいは | 5 しかも |
| | | | | 6 要するに |

問(三) 傍線部(1)「鳶が鷹を生む」とはここではどのようなことを意味しますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号

をマークしなさい。 7

- 1 受け手が通訳者・翻訳者のミスや不手際を聞き逃さずに指摘すること
- 2 送り手の発言の内容や意図と異なったり矛盾した通訳・翻訳をすること
- 3 受け手が通訳・翻訳を通じて送り手の発言の内容を正確に理解すること
- 4 送り手の低次元な発信内容を高尚なものに改変して通訳・翻訳すること
- 5 送り手の意図を無視して受け手を喜ばせるような通訳・翻訳をすること

問(四) 傍線部(2)「ある新聞社が主催した、長寿学に関するシンポジウムを聴講した際に目の当たりにしたような事態」とはどのようなことですか。そ

の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 8

- 1 聴講者の質問に対して発言者がずいぶんアバウトでのどかな回答をしたこと
- 2 発言者が発した大切な情報が通訳の段階で切り捨てられて聴講者に届かなかったこと
- 3 通訳者が、発言者の言葉を理解できなかったために、聴講者が大切な情報を聞き逃したこと
- 4 通訳者が発言者の発した大切な情報を意図的にねじまげて聴講者に伝えたこと
- 5 聴講者が発言者の発したお粗末な情報にがっかりして発言者を見下したこと

問(五) 空欄 A D を補うのにふさわしい四字熟語の組合せを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 9

- | | | | | |
|---|----------|----------|----------|----------|
| 1 | A 〓 多種多様 | B 〓 千差万別 | C 〓 古今東西 | D 〓 無理無体 |
| 2 | A 〓 多種多様 | B 〓 無理無体 | C 〓 千差万別 | D 〓 古今東西 |
| 3 | A 〓 無理無体 | B 〓 古今東西 | C 〓 多種多様 | D 〓 千差万別 |
| 4 | A 〓 古今東西 | B 〓 千差万別 | C 〓 多種多様 | D 〓 無理無体 |
| 5 | A 〓 古今東西 | B 〓 無理無体 | C 〓 千差万別 | D 〓 多種多様 |

問(六) 傍線部(3)「門外漢」とはここではどのような人と言いますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークし

なさい。10

- 1 専門的な知識を持たない人
- 2 外国語を理解できない人
- 3 その場に居合わせない人
- 4 通訳や翻訳の仕事に疎い人
- 5 長寿学に関心のない人

問(七) 傍線部X「あげつらってきた」、Y「口を糊する」、Z「身につまされる」の本文中での意味としてふさわしいものを、各群のうちから一つずつ

選び、その番号をマークしなさい。

X $\parallel$ 11

Y $\parallel$ 12

Z $\parallel$ 13

X 「あげつらってきた」 1 興味深い逸話を紹介してきた

2 短所を指摘して嘲笑してきた

3 非難がましく言ってきた

4 他人の愚かさを傍観してきた

5 よくある過ちを例示してきた

Y 「口を糊する」 1 何とか生計を立てる

2 社会と関わりを持つ

3 自分をアピールする

4 黙って黒子に徹する

5 言葉を自在に操る

Z 「身につまされる」

- 1 身の程知らずと見なされる
- 2 深く反省を迫られる
- 3 自業自得と思い知らされる
- 4 他人事ではないと思われる
- 5 いつでもどこでも起こりうる

問(八) 傍線部(4)「生業」はここでは「なりわい」と読む熟字訓です。同様に熟字訓である熟語を、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- 1 田舎
- 2 夕刊
- 3 路肩
- 4 昼顔
- 5 節分

問(九) 傍線部①～⑤の「ない」を文法的な違いによって分類したものととしてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

15

- 1 (①・②・③) (④・⑤)
- 2 (①・②) (③・④) (⑤)
- 3 (①・②・③・④) (⑤)
- 4 (①・②・④) (③) (⑤)
- 5 (①・④) (②・③) (⑤)

問(十) 傍線部(5)「訳はメッセージの送り手と受け手に依存する」とはどういうことですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選

び、その番号をマークしなさい。

16

- 1 通訳者・翻訳者は、送り手のメッセージを正確かつ過不足なく受け手に理解できる言語へと置き換えるということ
- 2 通訳者・翻訳者は、メッセージの送り手が受け手に偉く見えると同時に、受け手に理解されるような訳語を選ぶということ
- 3 通訳者・翻訳者は、送り手が発するメッセージの内容だけでなく、送り手と受け手がどのような人物であるかも考慮して訳語を選ぶという

こと

4 通訳者・翻訳者は、メッセージの送り手の地位や職業などに配慮するだけでなく、受け手の心情をも付度そなへするものだということ

5 通訳者・翻訳者は、メッセージの送り手と受け手の両方に仕える下僕であるから、余計な配慮をせずできるだけ自分を抑えるものだということ

問⁽⁺⁾

筆者の考えと合致するものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

1 「鳶が鷹を生む」ことも「鷹が鳶を生む」ことも許されない通訳・翻訳においては、送り手のメッセージの内容を忠実に訳すことだけがその使命である。

2 おおよそ通訳を介して発言する人は比較的偉い人が多いから、通訳者は決してでしゃばらず、自分というものを押し殺して仕事に励まなければならぬ。

3 通訳・翻訳に頼る受け手は送り手の元のメッセージの内容を理解できないのだから、訳者は意識したり、内容の一部を割愛したりしながら訳せばよい。

4 メッセージの送り手は受け手に配慮して言葉や表現を選び、受け手も送り手を考慮してその意味を推し量るものだが、訳者はその両方を代行する必要がある。

5 通訳者も翻訳者も、メッセージの送り手と受け手の両方に仕える下僕であり、時には彼らを持ち上げることもしないといけない、分の悪い仕事である。

設問は以上です。

1

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から現時点で掲載することができませんので、ご了承願います。
今後確認が取れた場合、公式ホームページで
公開致します。

問(一) 傍線部 a～e のカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a
||
1

b
||
2

c
||
3

d
||
4

e
||
5

(吉田篤弘「『三』の効用」光村図書出版による)

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題から現時点で掲載することができませんので、ご了承願います。
今後確認が取れた場合、公式ホームページで公開致します。

a

オオ|われた

- 1 腹痛を訴える。
- 2 風邪薬を服用する。
- 3 全幅の信頼を置く。
- 4 話が重複する。
- 5 覆水盆に返らず。

b

イロ|ドられ

- 1 歳月人を待たず。
- 2 異彩を放つ。
- 3 森林を伐採する。
- 4 木材を満載する。
- 5 大会を開催する。

c

カシ|コい

- 1 賢明な判断をする。
- 2 社長を兼務する。
- 3 社会に貢献する。
- 4 謙虚にふるまう。
- 5 新人社員の研修を行う。

d

カド|が立つ

- 1 核心をつく。
- 2 道路を拡張する。
- 3 隔世の感がある。
- 4 互角の戦いだ。
- 5 的確に説明する。

e キソウ

- | | |
|---|-----------|
| 1 | 菌並びを矯正する。 |
| 2 | 逆境に耐える。 |
| 3 | 二社が競合する。 |
| 4 | やむなく妥協する。 |
| 5 | 脅迫に屈しない。 |

問(二) 傍線部(1)「水墨画を見るような雲」の「ような」と意味・用法が同じものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 6

- 1 転んだとき、足をくじいたような気がする。
- 2 私の叔父さんのような頑固な人も珍しい。
- 3 人に後ろ指を指されるようなことはしていない。
- 4 宝石を散りばめたような満天の星だ。
- 5 約束の時間に遅れるようなら、連絡しなさい。

問(三) 傍線部(2)「()を発している」の空欄()を補うのにふさわしい漢字を、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

7

- | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1 担 | 2 単 | 3 端 | 4 短 | 5 誕 |
|-----|-----|-----|-----|-----|

問(四) 傍線部(3)「粹」の対義語が本文中にあります。それはどれですか。次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 8

- | | | | | |
|------|-------------------------|-------------------------|--------------------------|------|
| 1 単純 | 2 奢侈 <small>しゃし</small> | 3 洒落 <small>しゃれ</small> | 4 豪奢 <small>こうしゃ</small> | 5 野暮 |
|------|-------------------------|-------------------------|--------------------------|------|

問(五) 傍線部(4)「三度目の正直」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 9

- 1 言行が三度一致すれば正直者として認められるということ
- 2 物事は三度目には期待通りの結果になるということ

- 3 同じことが二度あると、もう一度起こりうるということ
- 4 正直者は今は不遇でも、いつか必ず報われるということ
- 5 二度うまくいっても、三度目もうまくいくとは限らないということ

問(六)

傍線部(5)「翻して」の本文中での意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

10

- 1 ざつくばらんに
- 2 別の角度から
- 3 単純明快に
- 4 元に戻して
- 5 蛇足ではある

2

次の文章はイタリア史を専門としイタリアに住んでいる作家によるものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

二〇一四年も終わりに近づいた現時点から見ても、来る二〇一五年もまた⁽¹⁾数多の難問に直面せざるをえないことだけは確かなようである。(イ)、二〇一四年に起った問題のほとんどが、解決のきざしすら見えない状態で残っているからで、そうなってしまった原因は、樹を見るのに熱中して森を見ることを忘れたために、単なる問題であつたものも難問化してしまい、ゆえに二〇一五年もそれらをすべて引きずることになるからである。

人間世界にとつての「森」は、つまり最高の目的は、平和の樹立にあると思つてゐる。「樹」は、その目的に達するための手段にすぎない。にもかかわらず人間とは、樹を前にしたただけでどう枝葉を切り払うべきかで意見が分裂してしまい、言い争つてゐるうちに樹は森の一部でしかないことを忘れてしまう。これを、「手段の目的化」という。「手段の目的化」による最大の^a弊害は、問題が横道に横道にと逸れて^そいることに、誰もが気づかなくなつてしまふことなのだ。⁽²⁾ニツチもサツチも行かなくなつてしまつた難問題とは、手段の目的化の結果にすぎない。ウクライナ問題しかり、パレスティナ問題しかり、EUの経済政策しかり、そして日露・日中・日韓をめぐる諸々の問題もしかり、である。

(ロ)、平和の樹立こそが至高の目的とは言つても、いかなる犠牲を払つても成し遂げることまでは意味しない。歴史に親しむ歳月が重なつた今、痛感していることが二つある。

第一は、人間とは、たとえ五十年間であらうと平和さえ保証されれば、相当な成果をあげる能力を持つてゐるという、歴史上でも立証されている事実。

第二は、とは言えこうも生産性を高めることのできる平和とは、自由な精神の活動も同時に保証された状態での平和であり安定でなければならぬということ。

私の家の近くに、皇帝アウグストゥス広場という名の広場がある。この初代皇帝が建造させた皇帝^{(注1) びょう}廟を中心、テヴェレ河に面した一方にはこれまた彼が建てさせた「平和の祭壇」(アラ・パース)を、^(注2)ムッソリーニが移築し、残る三方の二辺ともを古代ローマ式の円柱が立ち並ぶ回廊^bづくりにした一画だ。(1)

ムッソリーニのローマ帝国への憧れはわかるが、そこを行き来するたびに考えてしまふ。なぜ古代ローマ時代の円柱に比べて、ファシズム時代の円柱は神経が通つていず、浮彫りもモザイク画も稚拙な出来なのか。⁽³⁾なぜ、二千年も過ぎているのに、この程度のものしか作れなかったのか。第二次世界大戦に突入するまでのイタリアは、一応にしろ平和であり国内もそれなりに安定してゐたのである。だが、イタリア人の才能が最も効果的に

発^c 揮される造型分野での成果はこれだった。古代ギリシアの^(注3) スパルタも、長い歳月にわたって国内は安定していたのである。それでいて、後世には何ひとつ遺²せなかった。(2)

一国の統治者が最も心しなければならないのは、このことではないかと思う。(ハ)、自由な精神活動は保証しつつも全体としては前に進むということで、「樹は見つとも森を見ることがだけは常に忘れない」という心がまえ、と言い換えてもよい。(3)

しかし、私もふくめた多くの日本人は、彼らのような公的な地位は持たず権力も持っていない。そのわれわれでも、「樹を見て森を見ず」に墮³さないうで済むにはどうすればよいのか。(4)

まず、情報やデータなるものは頭から信じないことである。つまり、これらには常に距離を置いて臨む。樹を前にしてケンケンゴウゴウやっている人々を、離れた場所から眺めているということだが、これが情報洪水の現代ともなると大変にむずかしい。(二)、⁽⁴⁾ 物理的に断つ、という方法に訴えるしかない場合もある。なにしろ、放つて置くだけで、情報やデータの津波に流されてしまうほうが普通の時代に生きているのである。流されたくなければ安全な場所に逃げるしかなく、その安全な場所が意識して断つことだが、それでもこれに努める価値は、充分にあると思う。(5)

第一に、問題の本質を、つまり「森」を見失わないため。第二は、樹を前にして激論し合っている人々はそれをするだけでおカネを稼いでいるのに、稼いでもいないわれわれまでが彼らに合流し、いつの間にやら問題が横道にそれていることによる弊害までも、ともに引つかぶる必要はないと思うからである。情報過剰時代に生きるうえでの、自己防衛策としてもよい。

そして、この種の自己防衛策さえ打ち立てれば、国政担当者たちにとときに見られる、「樹は見つとも森を見ることがも忘れていない」やり方に敏感に反応し、それに支持を与えることもできるようになるのではないか。距離を置くとか頭から信じないという考え方は、我関せず、とは同じではないのである。

とはいえ、⁽⁵⁾ 私が勧めているのが実に困難な方法であるのはわかっている。何であれ信じてしまうほうが、精神的にはずっと楽チンなのだから。(ホ)、一年の最初ぐらいいはむずかしいことに頭を使ってもよいのでは、と思う。アリストテレスも言っている。人間は⁽⁶⁾ 政治的動物である、と。つまり人間は、やり方しだいでは、政治的人間にもなれるが、政治的動物にもなりかねない「アニマル」なのである。「樹を見て森を見ず」では、「政治的動物」になってしまう。政治的であろうと何であろうと、「人間」として生きたいとは思いませんか。

(塩野七生^{ななみ}『逆襲される文明 日本人へⅣ』文藝春秋による)

(注1) 廟Ⅱ祖先・先人の霊を祭る建物。

(注2) ムッソリーニ＝一八八三～一九四五年。イタリアの政治家。国家ファシスト党を結党し、独裁体制を敷いた。

(注3) スパルタ＝古代ギリシア時代の都市国家。

問(一) 傍線部a～cの漢字と同じ読みをする漢字を含むものを、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a	a	1	b	b	2	c	c	3
弊害		(1	併記		2	破綻		3
回廊		(1	惑溺		2	旺盛		3
発揮		(1	葛藤		2	亀裂		3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3
								3

問(二) 空欄(イ)～(ホ)を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選

んではいけません。)

イ	＝	4	ロ	＝	5	ハ	＝	6	ニ	＝	7	ホ	＝	8
1	しかし	2	それで	3	ただし	4	つまり	5	なぜなら	6	ところで			

問(三) 傍線部(1)「数多」は二字で「あまた」と読む熟字訓です。このような熟字訓ではないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

い。 9

1	田舎	2	七夕	3	為替	4	時雨	5	石畳
---	----	---	----	---	----	---	----	---	----

問(四) 傍線部(2)「ニツチもサツチも行かなくなってしまった」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

- 1 あれかこれかと選んでいる余裕がなくなった
- 2 何もしないまま、いたずらに先送りした
- 3 行き詰まって、どうにもならなくなった
- 4 深入りしすぎて、後戻りできなくなった

5 どれを選べばよいのか迷ってしまった

問(五)

傍線部(3)「なぜ、二千年も過ぎているのに、この程度のものしか作れなかったのか」とありますが、筆者はその理由をどのように考えていますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

- 1 古代ローマへの憧れだけで造形能力に欠けていたから。
- 2 平和の樹立が困難なファシズムの時代であったから。
- 3 古代ローマ時代の円柱をただ模倣したにすぎないから。
- 4 イタリアにも第二次世界大戦の危機が迫っていたから。
- 5 自由な精神の活動が保証されていなかったから。

問(六)

傍線部(4)「物理的に断つ」とありますが、その具体例としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

- 1 仲のよい友だちに裏切られて、彼とは絶交した。
- 2 辞書よりもネット検索で漢字を調べるようになった。
- 3 ゴールデンウィークを利用して海外旅行をした。
- 4 テレビのコンセントを抜き、携帯電話の電源を切った。
- 5 大都会の生活が煩わしくなり、地方都市に移転した。

問(七)

傍線部(5)「私が勧めている」とありますが、筆者はどのようなことを勧めていますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

13

- 1 自己防衛策として、「手段の目的化」に真剣に取り組む国政担当者に支持を与えること
- 2 精神活動の自由を守るために、公的な地位に立ったり、権力を持つたりしないこと
- 3 問題の本質を見失わないために、情報やデータを頭から信用せず、ときには意識して絶つこと
- 4 樹を前にしてケンケンゴウゴウやっている政治家たちの発言には一切耳を貸さないこと

5 いかなる犠牲を払ってでも平和の樹立を成し遂げようとする国政担当者を支持すること

問(ハ) 傍線部(6)「政治的動物」を筆者はどのような意味に理解していますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を

マークしなさい。 14

- 1 手段についてばかり議論したり、それに同調したりするような人間
- 2 政治を信用せず、政治には一切関心を持たないような人間
- 3 森を見ることを決して忘れない政治家を支持するような人間
- 4 周囲に付和雷同して統治者を熱狂的に支持するような人間
- 5 平和を樹立するために自由な精神活動を行っているような人間

問(九) 本文から次の文が脱落しています。どこに戻すのがふさわしいですか。後群のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 15

「スパルタ式」という言葉が遺っただけである。

- 1 (1)
- 2 (2)
- 3 (3)
- 4 (4)
- 5 (5)

問(十) 本文の内容と合致しないものを、次のうちから二つ選び、その番号をマークしなさい。(解答の順序は問いません。)

16・17

- 1 日露・日中・日韓をめぐる諸問題の解決が困難であるのは、手段を目的化した結果にすぎない。
- 2 平和の樹立のような至高の目的のためなら、どんな手段を用いてもよいというわけではない。
- 3 ファシズム時代のイタリアと違い、古代ギリシアのスパルタは自由な精神の活動が保証されていた。
- 4 一国の統治者はもちろん、国民もまた「樹を見て森を見ず」にならないように注意すべきである。
- 5 情報過剰時代に生きるうえで、思いきって情報を断つということも自己防衛策としてあってよい。
- 6 「樹を見て森を見ず」では人間は政治的動物になってしまうが、「森を見て樹を見ず」もまた同様である。

3

次の各問いに答えなさい。

問(一) 次の漢字の読みが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

1

- 1 溺れる(おぼ)れる
- 2 綻びる(ほころ)びる
- 3 憧れる(あこが)れる
- 4 潰す(つぶ)す
- 5 嘲る(ののし)る

問(二) 次の漢字の読みが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

2

- 1 爽快(そうかい)
- 2 曖昧(あいまい)
- 3 把捉(はそく)
- 4 貪欲(ひんよく)
- 5 唾棄(だき)

問(三) 次の漢字の画数が間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

3

- 1 糸(6画)
- 2 凹(6画)
- 3 互(4画)
- 4 喪(12画)
- 5 発(9画)

問(四) 「いやしくも」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

4

- 1 少なくとも
- 2 おそらく
- 3 ほとんど
- 4 かりにも
- 5 せいぜい

問(五) 次のことわざの漢字が間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

5

- 1 他山の石
- 2 百聞は一見にしかず
- 3 孫にも衣装
- 4 漁夫の利
- 5 角を矯めて牛を殺す

問(六)

次の四字熟語の意味としてふさわしいものを、後のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

6

四面楚歌

- 1 人の迷惑をかえりみないこと
- 2 誰に対しても如才なくふるまうこと
- 3 むやみに他人の意見に同調すること
- 4 誰からも相手にされないこと
- 5 周囲が敵対者ばかりであること

問(七)

次の四字熟語の空欄 に入る字を、後のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

7

然盲若

- 1 漫
- 2 泰
- 3 安
- 4 悠
- 5 平

問(八)

作品とその作者の組み合わせが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

8

- 1 破戒（島崎藤村）
- 2 それから（夏目漱石）

3 人間失格（太宰治）

4 たけくらべ（与謝野晶子）

5 細雪（谷崎潤一郎）

問(九)

次の文の傍線部の品詞としてふさわしいものを、後のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

9

これがいわゆるフェイクニュースというやつだ。

1 名詞

2 動詞

3 形容動詞

4 副詞

5 連体詞

問(十)

対義語の組み合わせが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

1 解散－集合

2 派手－地味

3 目的－手段

4 尊敬－軽蔑

5 当然－偶然

問(十一)

「霜月」は何月にあたりますか。ふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

1 二月

2 六月

3 九月

4 十一月

5 十二月

問(十二)

敬語の使い方が間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

1 私の部下の名を存じてますか。

2 会長がお越しになりました。

3 冷めないうちに召し上がれ。

4 明日の夕方にかがいます。
5 先方に申し上げます。

設問は以上です。

1

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

近代の政治思想の特徴としては、依存することへの極度の恐怖を指摘することができよう。この場合、「依存（dependence）」と対比されるのはもちろん、「自立（independence）」である。

政治を担う市民は、自立した存在でなければならない。他者に依存したままでは、自らを律することもできないからである。それゆえ、人々が政治の領域に^aサンニウするにあたって、まず確保しなければならないのは、他者への依存からの脱却である。このような考えが、近代政治思想史において繰り返し説かれてきた。

もちろん、他者の恣意的な意志に従属しないことをもって自由の本質とみなす伝統は、古代ギリシア・ローマ以来のものである。主人に従属する奴隷と対比されるのは、自由な市民である。そうだとすれば、自由な国家とは、他国の支配や自国の君主の恣意的な統治に屈することなく、市民が自らの国のあり方を決定できる国家であった。このような意味で、「個人の自由」と「国家の自由」が連続的に捉えられる伝統は、西洋政治思想史の一つの精神的背骨を形成してきた。

とはいえ、近代の政治思想においては、「依存」問題はもっぱら個人にフォーカスがあたることになる。そこで何よりも⁽¹⁾重視されたのは、個人が他の個人に依存しないことであった。個人の自由と国家の自由をつなげて理解する伝統はむしろスイ^bタイし、個人の自由それ自体が議論の中心となつたのである。

政治社会を構築するにあたって、人々は所与の依存関係をすべて^cセイサンして、完全に自由で平等な諸個人となる必要がある。そのような諸個人の契約によって打ち立てられた国家だけが、正当なものとなるであろう。このように説く社会契約論は、個人の依存を嫌う近代の政治思想の代表的なものである。

依存への恐怖を強調した主たる思想家としては、やはり^(注)ジャン＝ジャック・ルソーをあげねばならない。『人間不平等起源論』において、⁽²⁾ルソーは社会に存在する不平等がどこから生じたのかを探っている。その際に^dショウテンとなつたのが、やはり「依存」であった。

ルソーにいわせれば、自然状態において不平等は存在しなかった。なぜなら、そもそも人間の間に恒常的な^A的關係は一切存在せず、各人はそれぞれ自足した生活を送っていたからである。人間に備わっているのは、ただ自己保存の本能と、他者の痛みや苦しみにカン^eノウする憐れみ的情だけであり、ある意味でそれだけで十分だった。

ところが、人間の間には、いつしか相互依存の關係が生まれてくる。この關係こそが、あらゆる悪徳の源泉であった。人は次第にこの關係なしに

は生きていけなくなり、やがて嫉妬や妬^{ねた}みの感情が人々を支配するようになる。⁽³⁾ 他人の [] 暮らす人々の関係はあたかも「鉄鎖」のようになり、やがて所有権の確立がこの「鉄鎖」を完成させた。

このように説くルソーにとって、依存は [B] 的には支配―服従関係につながるものであった。「従属のきずな」というものは、人々の相互依存と彼ら結びつける相互の欲望とからでなければ形成されないのだから、ある人を服従させることは、あらかじめその人間を他の人間がいなくてはやっていけないような事情の下におかないかぎり不可能である」。

ここにあるのは、他の人間に依存することが従属につながる以上、そもそも他の人間を必要とすることそれ自体を悪とみなす思考である。しかし、人が他者に依存することはそれほど悪いものなのだろうか。

実をいえば、このような依存への恐怖は、現代の政治哲学においても幅広くみられるものである。一例としては、およそルソーとは異質な思想家とされている^(注2) フリードリヒ・ハイエクがあげられる。『隷従への道』において社会主義の計画経済を批判したハイエクは、『自由の条件』においてさらに踏み込んで自由についての原理的考察を行っている。彼にとっての自由とは「強制的排除」であり、この場合、「強制」とは人を他者の恣意的な意志に従属させることであつた。

これに対しハイエクが掲げるのが「法の支配」である。ハイエクにとっての「法の支配」とは、諸個人が自らの行動を決定するにあたって、事前にあらかじめ一般的なルールが示されていることを意味する。重要なのは、⁽⁴⁾ 恣意的な立法権力によって時々のルール変更がなされないことであり、また特定の個人や集団を狙い撃ちした [C] 的立法が行われないことである。

ハイエクといえ、市場を絶対視する思想家というイメージが強い。とはいえ、実際にその著作を読んでもみるとその印象はやや異なる。彼を突き動かしているのは⁽⁵⁾ 市場メカニズムへの信頼という以上に、他者の意志に従属することに対する忌避感である。他の個人の恣意的な意志に振り回されるくらいなら、形式的で一般的なルールに従う方がはるかにいい。もつとも悪いのは、他者の [X] 次第という状態に置かれることである。ハイエクが市場を評価したのも、それが非人格的なメカニズムであることによる部分が少なかつたはずだ。

他者の恣意的な意志への従属を恐れているのは、ハイエクだけではない。新たな生活保障の構想として現在 [Y] を浴びている、いわゆる「ベーシック・インカム（基礎所得保障）」論にしても、根底にあるのはやはり他者へ依存することへの恐怖ではなからうか。

この仕組みにおいては、国民の最低限度の生活を保障するため、一人ひとりの国民に直接現金が給付される。なぜこの仕組みが、[D] 的な生活保護や失業保険、医療補助や子育て扶助などの個別的な政策に比べ優れているかといえ、これらの制度に含まれる逆差別や不公正の可能性を排除できることに加え、現場レベルの行政担当者による恣意的運用を避けられるという点が大きい。

(6) ⑥
 その際、ポイントになっているのは、個別の制度にどれだけの不合理があるか、あるいは実際の運用にどれくらい問題があるかではない。少なくとも、それが主眼ではない。むしろ **E** ⑥ 的なのは、全員一律の現金給付という仕組みには、他者の恣意的な判断が入り込む余地が一切ないように思われる点である。少なくとも、末端行政官による裁量の余地をすべて排除することが重要である。

ここにみられるのはやはり、他者の判断や裁量に依存することへの恐怖である。何よりも避けるべきは、特定の個人の意志に左右されることである。それと比べれば、非人格的で一般的なルールや制度に従うことは、はるかにましである。このような発想は、今日の多様な政治哲学的思考にも広く浸透しているのではなかろうか。

(字野重規『民主主義のつくり方』筑摩書房による)

(注1) ジャン＝ジャック・ルソー＝一七二一～一七七八年。フランスの啓蒙思想家、哲学者、作家。

(注2) フリードリヒ・ハイエク＝一八九九年～一九九二年。オーストリアの経済学者。

問(一) 傍線部 a～e のカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a ⑥ 1 b ⑥ 2 c ⑥ 3 d ⑥ 4 e ⑥ 5

a サ | ニ ュ

- | | | | | |
|-------------------|------------------------|-----------------|-----------------|---------------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 女児をシュッ サ ンする。 | 川沿いにサ ン ザ イする民家。 | 弁当をジ サ ンする。 | サ ン ミが強い料理。 | 動議にサ ン セ イする。 |

b ス | イ | タイ

- | | | | | |
|-------------------------|-----------------|----------------|------------------|-----------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 道路がジ ュ ウ タイ する。 | 犯人をタイ ホ する。 | キ タイ を裏切る。 | タイ ゼ ンとかまえる。 | タイ ロ を断たれる。 |

c
セイサン

- 1 明日の天気はカイセイだ。
- 2 エンジンセイビする。
- 3 エンセイ隊に加わる。
- 4 セイヒンに甘んじる。
- 5 ハンセイを促す。

d
ショウテン

- 1 事務レベルでセツショウする。
- 2 リンショウ医を育成する。
- 3 実験結果をケンショウする。
- 4 左右タイショウのデザイン。
- 5 ショウソウにかられる。

e
カンノウ

- 1 ボンノウを捨てる。
- 2 環境にジュンノウする。
- 3 商品をノウニユウする。
- 4 ノウギョウを営む。
- 5 果汁をノウシユクする。

問(二)

空欄

A

E

を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選んでは

いけません。)

A 〓

6

B 〓

7

C 〓

8

D 〓

9

E 〓

10

1 最終

2 伝統

3 社会

4 従属

5 個別

6 本質

問(三)

傍線部(1)「重視」と熟語の構成が同じものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

- 1 脱皮 2 増減 3 堅持 4 非常 5 余人

問(四) 傍線部(2)「ルソーは社会に存在する不平等がどこから生じたのかを探っている」とありますが、ルソーの捉え方についての説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

- 1 自己保存の本能と憐れみの情を失った人間は他者に依存するようになり、さらには所有権をめぐる争いを始めた。
- 2 各人が自足した生活を送っていた自然状態の中に相互依存の関係が生まれ、それがやがて支配・服従の関係を生み出すことになった。
- 3 各人が自足して本能的に生を営む自然状態から脱却した人間は、お互いの欲望をきずなとして結びあって生きることになった。
- 4 自己保存本能で生きる自然状態から解放された人間の心の中に、相互依存が生み出す嫉妬の感情が芽生えた。
- 5 より一層の平等を求めて自然状態から脱却した人間であったが、やがて支配・服従という契約に縛られることになった。

問(五) 傍線部(3)「他人の [] 暮らす人々」の空欄 [] に入る言葉としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

13

- 1 鼻をあかして
- 2 尻馬に乗って
- 3 足を引っ張って
- 4 胸を借りて
- 5 顔色をうかがって

問(六) 傍線部(4)「恣意的な立法権力によって時々ルール変更がなされないこと」とありますが、これとは逆に「恣意的にルールが変更されること」を表わす四字熟語としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- 1 朝三暮四 2 一朝一夕 3 上意下達 4 朝令暮改 5 起死回生

問(七) 傍線部(5)「市場メカニズムへの信頼」とありますが、ハイエクにとって「市場メカニズム」が「信頼」できる理由としてふさわしいものを、次

のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 15

- 1 支配・服従という依存関係に対する人間の恐怖を抑制するメカニズムであるから。
- 2 社会主義の計画経済に基づいた強制を排除できる、自由なメカニズムであるから。
- 3 諸個人が自らの行動を決定することを前提として、法が支配しているメカニズムであるから。
- 4 特定の人間の意志に左右されない、一般的なルールに従うメカニズムであるから。
- 5 特定の個人や集団を狙い撃ちしない、絶対的な力を持つメカニズムであるから。

問(八) 空欄 ・ を補うのにふさわしい語を、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。 X Y

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|-----|---|------|---|-----|---|-----|
| X | 1 | 手ほどき | 2 | 腹具合 | 3 | さじ加減 | 4 | 根回し | 5 | 神頼み |
| Y | 1 | 喝采 | 2 | 視線 | 3 | 歓声 | 4 | 氣勢 | 5 | 脚光 |

問(九) 傍線部(6)「その際」の内容の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 18

- 1 他者の意志に従属することを忌避する際
- 2 「ベーシック・インカム」論とこれまでの個別的保障政策を比較する際
- 3 国民の最低限度の生活を保障する際
- 4 生活保護や失業保険、医療補助や子育て扶助などの政策を停止する際
- 5 現場レベルの行政担当者による恣意的運用を避ける際

問(十) 本文の内容と合致するものを、次のうちから一つ選びなさい。 19

- 1 他者への依存からの脱却という考え方は、古代ギリシア・ローマ以来の政治思想の中核的理念である。
- 2 近代の政治思想においては、「個人の自由」と「国家の自由」は全く別のものと考えられている。
- 3 近代の政治思想は、完全に自由で平等な諸個人の契約によって打ち立てられた国家を正当なものとする。
- 4 ルソーとハイエクの政治思想の違いは、市場メカニズムを絶対視するかないかという点にある。

5 非人格的なルールや制度も、それに従わねばならないという点で支配・服従という依存関係を脱却できていない。

2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

これは私と同年配の、もう八十歳に近い人の話になるが、幼い頃の遊び場と言え、狭い路地のようなところであれば、お寺の境^a内だったとい

う。
下町の育ちの人である。小ぢんまりとした町^{ちまた}のお寺で、境内もひろくはないが南へ向いていたので、とりわけ冬場には子供の溜^たまり場となった。背中におぶった赤ん坊をゆすりながら境内を行きつ戻りつする老女の姿も見えた。お堂の裏手には墓地があった。卒^そ塔^{とう}婆^ばの先端^{せんぽん}がのぞく。春ともなれば墓地から陽炎^{(1)かげろう}が立つ。その光景が今になり懐^bかしく思い出される。陽炎の中で遊んでいたような気がする。すべて、空襲によって焼き払われた。

山の手のほうになるが、私も敗戦の直後の一時期、お寺の多い界隈^{かいわい}に暮らした。江戸期に市街地から「山」のほうへ越してきた寺院らしい。すでに古色蒼然^{そうぜん}としたお寺もあったが、空襲に焼かれて新普請^cのお寺もあった。

あちこちに焼け跡があったので子供たちは遊び場に不自由はしなかったが、興に乗れば町から町へと走りまわる。お寺の境内から墓地を、群れをなし歓声をあげて駆け抜ける。けしからん餓鬼どもである。その罰だが、墓地でたたか^dに転んだことがある。その疵^{きず}から高熱を出した。親は眉⁽²⁾をひそめていた。(イ)子供は懲^eりない。暮れ方に仲間と墓地を抜けて帰ってくることもあった。

青年期までは引越しの多い人生だった。それが、三十歳の頃にもう一度越して、まだ飯の住まいのように思ううちに、いつしか五十年近く居ついたり、現在に至る。

あたりに三箇所ばかりあるが、どれも歩いては半時間近くかかる。ここに住まう間、作家としてさまざまに書いてきたが、通夜^fや葬式^{そうしき}のことは別にして、お寺が情景として出てきた作品は、一篇もないような気がする。明治や大正、昭和の初期までの先人たちの小説を読むと、お寺のある情景がよく出てくる。さりげなく描かれているが、読む私の眼はそこに留まる。

私の生まれる頃にはもう失われた情景らしいが、なにやら深い見覚えがある。私自身がそこに立って、つくづく眺めているような、そんな心地がしてくる。それにつけても、今の世で小説などを書くのは、なんと味気ないことか、と⁽³⁾つい溜め息もれる。

お寺が近くには、町がどうも町にならない、と思うこともある。

(中略)

お寺の鐘の音というものを、東京で生まれ育った私は日常に聞いた覚えがない。(ロ)遠くにかすかに聞こえていたのを、忘れていたのかもしれない。

れない。

戦争が本土に迫る頃に、寺々の鐘が軍需のために供出させられたと聞く。梵鐘が融かされて砲弾などに化したわけだ。たとえ供出をまぬがれたとしても、おおつぴらに鐘を撞くのははばかられたのだろう。

(4) 永井荷風が、昭和の十年の頃のことと思われるが、東京の鐘の音のことを随想の中に書いている。芝の増上寺から麻布の高台へ伝わってくる鐘の音らしい。二、三日荒れた木枯らしが、冬の日の暮れるとともにぱったりと止んだその静まりの中を、最初のひと撞きがコーンとはつきり耳についてきた、という。(ハ)、糠雨の雫が庭の若葉の、葉末から音もなく、滴る薄暗い昼過ぎに、鐘の音がいつもよりいっそう遠く柔らかに聞こえてくる、とある。さらにまた、秋も末に近く、ひと宵ごとに力を増すような西風に、とぎれて聞こえてくる鐘の声の、寂寥感を荷風は噛みしめている様子である。それにつけても、我が身に迫る老いと、戦乱へ傾く世の移りとを感じさせられたらしい。そして随想の結びは、

—— たまたま鐘の声を耳にする時、わたくしは何の理由もなく、むかしの人々と同じやうな心持で、鐘の声を聴く最後の一人ではないかといふやうな心細い気がしてならない……。

昭和十一年、荷風の五十七歳の作品である。その翌年に私は生まれている。そのわずか八年後の昭和二十一年に、荷風の麻布の住まいも、郊外の私の家も、空襲で焼き払われた。あるいは、近頃しきりに鐘の音が耳につくようになった荷風の感慨の内には、東京の炎上の予感がふくまれていたのかもしれない。

私にとってはしよせん、知らぬ鐘の音である。それなのに、冬の冴えた空氣にくつきりと響く、あるいは初夏の小雨の中にやわらかにふくらむ、あるいは晩秋の風にとぎれがちに運ばれてくる、そんな遠い鐘の音へ、私もつくづく耳をやったことがあるような気がする。

往古の歌集を読むうちに、鐘の音を詠みこんだ歌に出会ふと、いましがた聞こえたかのように、遠くへ耳をやることがある。(1) 千年もの時空を渡ってくる鐘の声ということになるか。花の頃の、霞を洩れる鐘の音、という。恍惚感を誘う。(注) 入相の鐘をつくづく、今日もこうして過ぎたかと聞く。寝覚めに聞く鐘、これには年を取るほどに身につまされる。(2) しかし何かと事にまぎれる人生にあって、我に返った心地もするのではないか。

—— 諸行無常の鐘の声 聞いて驚く人もなし

そんな歌謡が近世にはあったそうだ。(5) これが世の人の常であろう。しかしひとつの寺の鐘を、その声の渡る範囲の里や街の人が揃って耳にする。聞くともなく聞く。それだけでも功德ではなかったか。ほんのつかのまの、意識にもならぬ、悟りというものはある。悟りとまでは行かなくても、しばしのあらたまりはあるだろう。(3) 諸行無常の声は、哀しみではあるが、人生に行き詰まった者には、救いでもあるはずだ。

今の世の寺院は朝夕に鐘を撞くわけにもいかないだろう。山寺でもないかぎり、やかましいとの苦情が近隣から出ると思われる。(二) 夜中や夜明けに鐘を鳴らせば、寝覚めがちの高年者から、あの音を聞いていると、わびしくてしかたがない、と泣きつかれるかもしれない。

西洋の旅の宿で私も幾度となく、街の教会の鳴らす夜の時鐘に眠りを破られた。あれはわびしいものだ。梵鐘のような幽玄な音色にとほしいので、なおさらのことだ。しかし鐘の音の残りを数えるうちに、「柄」にもなく、来し方行く末を思わせられる。(4) 自身の過去よりさかのぼる来し方のように、そして自分の生涯をも超える行く末のように、しばしば感ずる境はある。いまこの鐘の声を、何人もの、見知らぬ人たちが寝覚めて聞いているのだらうと思えば、わびしさもやすらぐ。

——明るやら西も東も鐘の声 野水

芭蕉七部集の、連句の内に見える。

「明るやら」とあるのは、未明に寝覚めして物を思いうちに、鐘の音が聞こえてきて、夜の白々と明け染めたのを知ることだろう。鐘の音へ耳をやる人物は、その前の句に「盗人の妻」とあるから、あわれである。「明るやら」というつぶやきも、女人の唇を思わせる。(5) そして「西も東も鐘の声」とは、昔の市街は、あるいは里も、そんな暮らしたのだらう。

朝夕の鐘の音も聞かぬ現代の大都市に住まう者として、うらやましい気がする。今でも鐘の音を聞いて暮らす土地があるなら、いよいようらやましい。

しかし今の世に寺院というものがあるからには、音にならなくても鐘の声は、おのずとある、とそう思いたい。寺院そのものが、鐘の声ではないか。(6) () を告げるばかりではない。来世のことはさて置き、過去の衆生の存在を、今の衆生に感じさせる。過去の衆生の重みが掛かったほうが、根から浮きがちの今の人間は、生きやすいのかもしれない。

(古井由吉『書く、読む、生きる』草思社による)

(注) 入相 夕暮れ。

問(一) 傍線部 a ~ j の漢字の読みが間違っているものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

- | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|------|------|---|---|-----|-----|---|---|------|-----|
| i | 1 | a | 「境内」 | けいだい | 2 | b | 「懐」 | なつ | 3 | c | 「普請」 | ふせい |
| | 4 | d | 「転」 | ころ | 5 | e | 「懲」 | こ | | | | |
| ii | 1 | f | 「通夜」 | つや | 2 | g | 「滴」 | こぼれ | 3 | h | 「柔」 | やわ |

i 1

ii 2

- 4 i 「幽玄」 ㊦ ゆうげん 5 j 「柄」 ㊦ がら

問(二) 空欄（イ）（ニ）を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。（同じ番号を二度以上選

んではいけません。）

- 1 あるいは 2 たとえば 3 しかし 4 まして 5 さらに

イ ㊦ 3

ロ ㊦ 4

ハ ㊦ 5

ニ ㊦ 6

問(三) 傍線部甲「巷」、乙「糠雨」の意味としてふさわしいものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

甲 ㊦ 7

乙 ㊦ 8

甲「巷」
1 畑中
2 街中
3 田舎
4 港町
5 郊外

乙「糠雨」
1 にわか雨
2 激しい雨
3 通り雨
4 冷たい雨
5 細かい雨

問(四) 傍線部(1)「陽炎」の読みは二字で「かげろう」と訓読みする熟字訓です。これと同じ熟字訓で読む熟語を、次のうちから一つ選び、その番号を

マークしなさい。 ㊦ 9

- 1 為替 2 仏間 3 建具 4 惑溺 5 隙間

問(五) 傍線部(2)「眉をひそめていた」とはここではどのような様子を言いますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

- 1 高熱を出すような大怪我をしてまで遊びにふけるわが子を持てあます様子
- 2 わが子の疵と高熱が心配でならず、かいがいしく看病につとめている様子
- 3 転んで怪我をするほどに外で元気に遊び回るわが子を頼もしく眺める様子
- 4 わが子の病状を案じながらも、その腕白ぶりに手を焼き、機嫌の悪い様子
- 5 大声を上げて走り回ることしか遊びがないわが子を不憫に思う様子

問(六) 傍線部(3)「つい溜め息ももれる」とありますが、その理由の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

- 1 先人たちのすぐれた小説を読むと、お寺のある情景が髣髴ほうふつとしてくるから。
- 2 今の世ではお寺と言っても、通夜や葬式のことしか思い浮かばないから。
- 3 お寺のある情景の中で生きることがなくなり、寺の風情をさりげなく描けないから。
- 4 昭和初期までの先人たちの小説に比べて、現代の小説は見劣りがするから。
- 5 住まいの周囲には三箇所もあるのに、一度も小説に描いたことがないから。

問(七) 傍線部(4)「永井荷風」と同じ耽美派に分類される小説家を、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

- 1 谷崎潤一郎
- 2 志賀直哉
- 3 夏目漱石
- 4 太宰治
- 5 島崎藤村

問(八) 傍線部(5)「これ」が指示する歌謡の内容としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

13

- 1 お寺の鐘の音などいつも聞き慣れていて、驚く者は誰もいないということ
- 2 お寺の鐘の音を聞くと、この世の無常を思わずにはいられないということ
- 3 お寺の鐘の音はやかましいので、できるなら撞かないでほしいということ

- 4 お寺の鐘の音を聞いてもこの世の無常に思いをいたす人はいないということ
- 5 お寺の鐘の音に無常を悟ることはなくても、心は改まるものだという事

問(九) 傍線部(6)「()」を告げるばかりではない」の空欄 () を補うのにふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- 1 功德
- 2 諸行無常
- 3 来し方行く末
- 4 寢覚め
- 5 鐘の音

問(十) 本文から次の文が脱落しています。本文中の(1)～(5)のどこに戻すのがふさわしいですか。後群のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

15

わびしい。

- 1 (1)
- 2 (2)
- 3 (3)
- 4 (4)
- 5 (5)

問(十一) 本文の標題としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

- 1 下町育ち
- 2 東西の鐘
- 3 お寺の境内
- 4 荷風の感慨
- 5 鐘の声

問(十二) 筆者の考えと合致するものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

- 1 お寺の境内を幼いころの遊び場としていた者にとっても、鐘の音は特別な感慨をもたらすものではなく、時を知らせるものでしかない。
- 2 お寺の鐘の音は諸行無常に気づかせてくれる点で、たんに時を知らせるにすぎない西洋の教会の鐘の音よりも情趣があり、味わい深い。
- 3 寢覚めがちの高齢者にとっては夜中や夜明けの鐘の音を聞いているとわびしくてならないので、撞かないでもらえるとありがたい。
- 4 お寺が出てくる情景を描いた先人たちの小説を読むと、子どものころお寺の境内で遊んだ記憶が鮮明に蘇ってきて懐かしいかぎりである。
- 5 現代人が好ましく感じない朝夕の鐘の音であるが、過去に生きた人びとに思いをいたし生の安らぎを実感する契機になるかもしれない。

設問は以上です。